

研究のテーマ

わくわく・ときどきが伝わる生活科の創造
～豊かな体験や探究活動を通して～

1. 単 元 おおきなあれ「おいしいやさいができたよ」

2. 目 標

- (1) 野菜の栽培の学習をふりかえり、一生懸命に世話をして育てたことへの満足感・成就感をもつ。
(関心・意欲・態度)
- (2) 野菜栽培の学習をふりかえり、栽培活動や野菜の成長の様子などを自分なりの表現でまとめたり、発表したりすることができる。
(思考・表現)
- (3) 表現活動を通して、野菜の成長の様子や友だちのよさに気づくことができる。
(気づき)

3. 単元について

(1) 教材観

この単元は、学習指導要領の生活科内容(7)「動物を飼ったり育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、またそれらは生命を持っていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする」を受け、これまで育ててきた野菜の成長の様子や育ててきた喜びを、発表会という形で表現する単元である。また、発表会を通してお互いの発表の工夫やよさを発見させることもねらいとしている。

(2) 児童の実態(男子17名 女子22名 計39名)

調査日 H21.11.10

①	いまままでに、やさいをそだてたことがありますか。	・ある	29	名	・ない	10	名
②	やさいをそだてることはたのしかったですか。	・たのしかったです	28	名	・たのしくない	11	名
③	そだてたやさいはおいしかったですか。	・おいしかったです				29	名
		・おいしくなかった				6	名
		・たべてない				4	名

「自分の野菜をそだてましたか」という質問に多数の児童が育てたことがあると答えており、野菜への興味関心は高い。こうした意識から、春に自分で選んだ野菜の苗を、一生懸命に育て観察してきた。特に自分で育てた野菜を食べることへつながる学習のため、児童の関心が高い。また、野菜嫌いの児童が多いにもかかわらず、「野菜作りが楽しかった。」「野菜がおいしかった。」と答えた児童がそれぞれ約75%いることから、自分で野菜をつくることの楽しさを味わうことができ、関心・意欲の向上につながったものと思われる。

(3) 指導観

栽培学習のまとめとして、直接体験で知った野菜の成長の様子に加え、自分たちで野菜を育てることの難しさや楽しさについても気づかせて自分なりに表現させたい。表現方法は、児童が自由に選択できるようにし、多様な表現方法を準備し、それぞれの表現方法を自分で見て決定できる場を設けたい。さらに、発表会練習や発表会の意見か発表内容を聞くことによって、自分にはない友だちのよさにも気づかせたい。発表の仕方も絵本や紙芝居など様々な形式で自分なりに工夫して、相手に伝わる発表ができるように用意したい。また、国語科の「あったらいいな、こんなもの」で学習した、発表の方法についてももう一度学習を深めていきたい。

(4) 特別な教育的な支援の必要な児童

A女は、声を出すことができない。本人の書いてある発表原稿をもとに、班の児童が発表の手伝いをできるように声かけをしていく。また、A男B男B女は、授業への集中が持続せず、途中で他のことに意識がいつってしまうため、次に何をするのか、細かく声をかけていく必要がある。

4. 指導計画 (10時間取り扱い・○は本時)

次	時	学習活動	評価の主な観点
<第1次> 発表会の計画を立てよう。	1	野菜栽培をふりかえり、まとめとして、発表会を行うことを知る。	・学習計画が分かり、発表会へ向けての意欲を高めることができる。 (関心・意欲・態度) ・野菜の栽培活動での、野菜を育てることの難しさや楽しさに気づく。(気付き)
	2	発表したい内容や表現の方法を決める。	・自分なりに発表したい内容や表現方法を決めることができる。 (思考・表現)
	3	グループごとに発表の計画を立てる。	・自分の思いを生かして発表の計画を立てることができる。 (思考・表現)
<第2次> 発表会の準備をしよう。	4 5 6	グループごとに発表の準備をする。	・自分の役割に責任を持ち、進んで準備しようとする。 (関心・意欲・態度) ・自分の伝えたいことを工夫してわかりやすく選択した表現方法でまとめることができる。 (思考・表現) ・発表の準備を通して、友だちのよさに気づくことができる。 (気付き)
	⑦ 本時	グループごとに発表の練習をする。	・聞く人にわかりやすく発表することができる。 (思考・表現) ・発表の練習を通して、友だちの発表のよさに気づくことができる。 (気付き)
<第3次> 発表会をしよう。	8 9	発表会をする。	・意欲的に発表できる。(関心・意欲・態度) ・聞く人のことを考えながら工夫して発表することができる。 (思考・表現) ・発表会を通して、友だちの発表のよさに気づくことができる。 (気付き)
	10	ふりかえりをする。	・発表会を通しての気付きや感想を絵や文で表すことができる。 (気付き)

5. 本時の指導

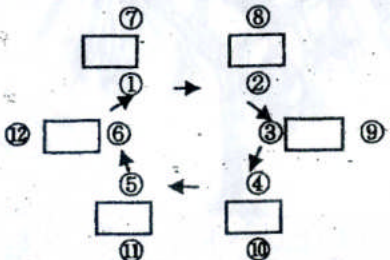
(1) 目標

- ・聞く人にわかりやすいように工夫して発表することができる。

(2) 資料・準備

- ・「こえのものさし」 ・ 振り返りカード ・ アドバイスカード
- ・発表に使う資料 (紙芝居・絵本・ペープサートなど)

(3) 展 開

学習活動・内容	教師の支援・配慮と評価
1. 本時の学習課題をつかむ。 はっぴょう会のれんしゅうをしよう。 2. 話すときに気をつけることを考える。 ゆっくり、はっきり大きな声ではっぴょうしたほうがわかりやすいと思います。 絵本や新聞が見やすいようなところに立ってはっぴょうした方がいいと思います。 あいての目を見てはっぴょうすることも大切だと思います。 「,」「。」で間をあけてはっぴょうすると聞きやすいと思います。 ・声のものさし「3の声」 グループで聞こえる声で発表する。 ・久慈っ子聞き方マナー「あいうえお」 3. 発表の練習をする。 ・ミニトマト①④⑦⑩ ・サツマイモ②⑤⑧ ・ピーマン ③⑥⑨⑫ ・ナス⑪ (1) 班で発表の練習をする。 ・各班で決めた役割分担に従って、1回練習をする。 (2) 聞き手と話し手に分かれて練習する。  【話し手】⑦班～⑫班 ◎2回練習する。 【聞き手】①班～⑥班 ◎アドバイスカードに記入してわたす。 ○アドバイスカードの観点 ・発表の声の大きさ、早さ、姿勢 ・句読点への注意 4. 本時のふりかえりをする。 ・本時のふりかえりをふりかえりカードに記入する。 5. 次時の学習を確認する。 アドバイスをもらったことをいかしクラスではっぴょう会をしよう。	・「声のものさし」を掲示し、「3の声」の音量を確認する。 ・予想される児童の意見を画用紙に書いておき、黒板に掲示できるようにしておく。 ・意見が出ないときには、国語の学習で学んだ発表の仕方を思い出させる言葉かけをする。 ・話すことのポイントを確認した後、「久慈っ子聞きかたマナー」を復唱し、聞き方にも注意を促す。 ・発表の練習の仕方を伝える。特に、2回目の移動方法は図で示し、掲示しておく。 ・練習に入る前に、聞く人が使う「アドバイスカード」の書き方を説明する。「アドバイスカード」には、直した方がいいところだけではなく、よかったところも書くように伝える。 ・班のみの練習から聞き手のいる練習への移動の合図に、クッキングタイマーを活用する（5分間）。 ・移動にとまどっている児童にはグループの仲間で助け合えるように声をかける。 ・話の聞き手には、アドバイスカードを用意し、発表終了後に記入させ、話し手にわたせるようにする。 ・話し手は、1回目の練習でもらったアドバイスカードを活かして2回目の練習ができるように言葉かけをする。 ・発表が思うようにできないグループには、友だちどうしで解決できるように助言する。 ・自信を持って発表会に臨めるように、机間指導時によくできたポイントを称賛する。 【評】聞く人にわかりやすいように発表することができた。 (思考・表現) ・次時の予告をし、児童の意欲を高める。